

長野県埋蔵文化財ニュース

No. 21

1987.6.30

(財)長野県埋蔵文化財センター

長野調査事務所
〒388 長野市篠ノ井布施高田字佃963-4
TEL 0262-93-5926

茅野市棚畑遺跡

—— 大型土偶を出土した縄文中期集落址 ——

茅野市教育委員会 鵜飼 幸雄

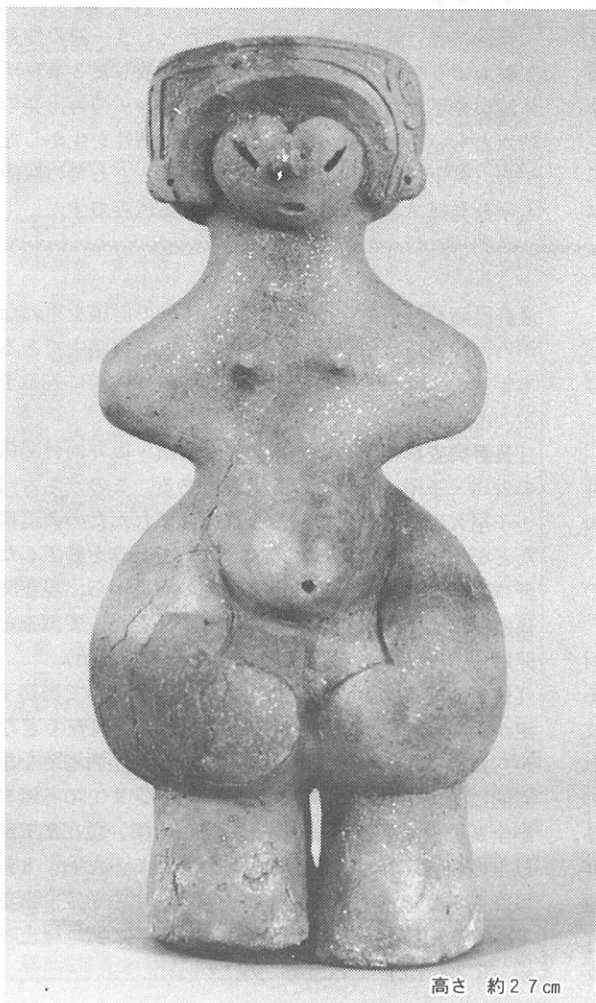
棚畑遺跡は茅野市米沢埴原田の、霧ヶ峰の南山裾に突出した台地上にある。南東側に開けた台地下を流れる上川をはさみ、八ヶ岳山麓と相対するこの台地は、水にも恵まれ日当たりもよく、かつ北の蓼科から東の八

ヶ岳連峰を眼前に見渡せる眺望のよい場所である。

発掘調査は工業団地の造成に伴うもので、61年4月～11月まで、台地上の平坦部約10,000㎡を発掘した。

その結果、検出された主な遺構は住居址15か所（縄文前期4・中期145・平安9）のほか、配石遺構1・建物址3・小鍛冶址1・土坑650がある。また、これらの遺構に伴って発見された遺物も膨大な量がある。なかでも特筆されるのは、ほぼ完全な形で発見された縄文中期の大型立像形の土偶である。

この土偶は集落中央部に掘られた土坑群の1つから、側臥に安置された状態で出土した。土偶それ自体の評価もさることながら、集落内での位置や、出土状態が明確である点に発見の大きな意義がある。棚畑遺跡の発掘は、台地上の縄文集落がほぼ完全に発掘されたという点において注目される。しかもその集落は、特に縄文時代中期の全期間を通じて営まれたこの地域の拠点集落であると考えられ、この点も踏まえて現在整理研究を進めている。



高さ 約27cm



棚畑遺跡全景

埋蔵文化財センター6年目を迎えて

——松塩筑・佐久・長野3調査 事務所体制の発足——

副理事長 高橋 弘典

当センターも発足以後6年目を迎え、組織・機構等の面で一新することになりました(次頁参照)。

昨年10月、関越道上越線関連遺跡調査のため、佐久市岩村田に「佐久調査事務所」が設置され、すでに活動を始めていましたが、本年度からは、中央道長野線の北上に伴い、筑北地方の麻績・坂井両村の調査や、長野市篠ノ井塩崎地域の調査準備もあって、長野市篠ノ井に「長野調査事務所」が新設されました。あわせて従来松塩筑調査事務所内にあった「事務局」もここに移管し、3事務所を統括する体制となりました。

各事務所とも常務理事を兼ねる所長を中心に、庶務部と調査部に分れ、事業を推進していきます。本年度は松塩筑は所長以下31名、佐久28名、長野13名というスタッフで、それぞれの持ち場で3事務所が密接な連携を保ちつつ、地域社会のニーズにも即応できるよう、一層の努力を続けるつもりです。

さて、昨年度までは松本・塩尻両市域の発掘調査に追われ続けたというのが正直の感想ですが、そうした

中で、センター発足後はじめて、調査成果をまとめた報告書を刊行することができました。57年から59年の3ケ年に及ぶ岡谷市関係分を500余頁の大冊にまとめました。初めての報告書であります、大方の御叱正・御指導をいただき、今後引続く塩尻市関係分以後のために役立てたいと考えています。

発掘調査→整理作業→報告書刊行という一連の作業工程もようやく揃った上で、広域に分散した3事務所体制が発足した本年は、一面ではセンターの再出発の時点ともいえます。各事務所の特性や個性を生かしなが、県下埋蔵文化財に関するセンターとしての機能も十分発揮できるよう今後も邁進する所存です。



長野調査事務所開所式風景

昭和62年度 事業の概要と調査現況

事務局長 半田 順計

本年度は3事務所体制の発足という新しい局面を迎えたので、以下、各事務所ごとにその事業概況を次表に示しながら、5月末の現況を略述したい。

〔松塩筑調査事務所〕：発掘調査は、昨年一部残件のため未調査地区を残した松本市北中遺跡(終了)と、新しく明科町の北村遺跡の2ヶ所となる。とくに北村遺跡は、国道と鉄道が中央を横切るという難問がある上、現在までのところ古代面より更に深い地点で縄文後期の包含層が検出され今後の調査の展開が懸念されている。一方、整理作業は、塩尻市Ⅰ分が現在編集の最終段階に入っており、今年中の刊行を目ざしている。塩尻市Ⅱは図版作成や一部レイアウトにも入り、今年度末編集を完了し、来年度刊行の予定で整理作業を継続中。松本市・豊科町分については、何分検出遺構だけでも数千に及ぶため、現在各遺跡ごとの図面調整が

最終段階を迎えているので、編集方針の討議を重ねながら、次の遺物についての取扱いなどを協議中である。本年度中に編集要項をまとめ統括的整理作業に入る予定である。

〔長野調査事務所〕：発掘調査は麻績・坂井両村関係の古司・子尾入・野口の3遺跡である。このうち古司・子尾入両遺跡は、遺跡中心部をはずれたため、遺構などを検出できなかったため5月末で調査を終了した。野口遺跡については残件や耕作物の関係から、現在関係機関による調整交渉中で、その結果をまって調査を開始する予定である。(7月8日から調査開始)

〔佐久調査事務所〕：未契約やその他の理由で当初予定が大幅に変更された。特に東地全域が調査できなかったため、岩村田地区の栗毛坂・西赤座両遺跡を重点的に調査中である。縄文時代から中世までの各遺構が全長1km以上の調査地域から検出中で、現在まで50以上の住居址等の遺構が発見されている。なお、8月以降残る東地・平根地区の調査も開始する予定である。

〔事業予算〕：中央道長野線441,146千円、関越線上越線375,896千円

昭和62年度 長野県埋蔵文化財センター組織一覧

(○印新任、●兼任)



昭和62年度事業計画と進行状況 (62.5.31現在)

1. 中央自動車道長野線 (塩尻トンネル〜本松トンネル間)												
(1) 発掘調査		遺跡名	調査対象面積	62年度調査面積	4	5	6	7	8	9	10	11
・松本市		1. 北 中	12,760	895								
・明科町		2. 北 中	21,000	21,000								
・麻績村		3. 野 口	9,700	9,700								
・坂井村		4. 古 司	14,500	14,500								
		5. 子 尾	12,800	12,800								
		小 計	37,000	37,000								
		合 計	70,760	58,895								
2. 関越自動車道上越線 (佐久市八風山トンネル〜佐久インター間)												
(1) 発掘調査		遺跡名	調査対象面積	62年度調査面積	4	5	6	7	8	9	10	11
・塩尻市		1. 青木沢他 19遺跡	127,254									
・松本市		2. 吉田川西 1遺跡	25,100									
・豊科町		3. 神戸 他 12遺跡	282,300									
3. 上越自動車道越中線 (越中町〜越中インター間)												
(1) 発掘調査		遺跡名	調査対象面積	62年度調査面積	4	5	6	7	8	9	10	11
・東 地		1. 西 林	2,400	2,400								
		2. 干 草 場	1,700	1,700								
		3. 城 の 口	700	700								
		4. 東 赤 坂	7,400	7,400								
		5. 西 赤 坂	2,300	2,300								
・平 根		6. 大星尻古墳群	20,000	2,000								
		7. 丸山古墳群	22,000	2,200								
		8. 西大久保	6,400	6,400								
		9. 腰 巻	5,300	5,300								
・岩村田		10. 栗毛坂	78,500	69,544								
		11. 西 赤 坂	6,700	6,700								
		合 計	153,400	106,644								



昭和61年度文化課埋蔵文化財関係事業及び行事予定

I 文化財保護事業

1 文化財総合対策事業

ア 埋蔵文化財の調査研究、普及啓発事業

- ・ 埋蔵文化財の調査研究
- ・ " " 調査技術の研修及び指導
- ・ 長野県遺跡調査指導委員会

イ 文化財保護調査事業

指定文化財以外の文化財について、今後の保護施策を検討するための調査

ウ 史跡・名勝・天然記念物整備事業

2 文化財調査管理事業

ア 文化財パトロール事業

国及び県指定の建造物・史跡・名勝・天然記念物及び埋蔵文化財包蔵地を対象にパトロールを実施し、現状把握をするとともに、所有者及び管理者に対し指導助言を行う。

3 文化財保存事業

文化財修理、防災事業計画

善光寺本堂（解体修理・部分修理）、森將軍塚古墳（防災工事）等及び埋蔵文化財緊急発掘調査、遺跡詳細分布調査、遺物保存処理等の事業

4 文化財普及公開事業

5 埋蔵文化財保護事業

ア 埋蔵文化財保護指導事業

遺跡の衆知、開発事業との保護協議、発掘調査に関する指導・助言。

イ 埋蔵文化財包蔵地パトロール事業

長野県考古学会に委託し、パトロール及び現状確認

6 中央道長野線・関越道上越線埋蔵文化財発掘調査

日本道路公団から県が委託し、県は財団法人長野県埋蔵文化財センターへ委託し、発掘調査を実施している。

7 歴史の道調査整備事業

江戸時代以前の古い道、河川等交通関係の遺跡を、周囲の環境を含めて総合的かつ体系的に把握するため調査し、将来の保護施策の基礎資料とする。

II 埋蔵文化財関係行事予定

- 1 市町村文化財担当者会議（9月、長野市予定）
- 2 長野県文化財保護審議会
- 3 長野県遺跡調査指導委員会（年2回予定）
- 4 関東甲信越ブロック埋蔵文化財担当者会議（栃木県、10月～11月予定）
- 5 関越自動車道・新幹線関係4県埋蔵文化財担当者会議（本県当番、秋ごろ予定）
- 6 関東甲信越静ブロック埋蔵文化財実技研修会（栃木県、11月～12月予定）

全国埋文協総会開かる —諏訪市を会場 約100名参加—

第8回を迎えた全国埋蔵文化財法人連絡協議会の総会が6月11日（木）～12日（金）にかけて、諏訪市湖泉荘を主会場として開かれた。

現在、この協議会には全国の法人埋文センターの大半が加盟しており、33団体となっている。年1回の総会と研修会があり、全国を持ち廻りで開かれている。

河原純之文化庁主任調査官の講話、功労者表彰のあと8項目の議事の審議を終え、翌日は諏訪大社上社及び北沢美術館の見学をして無事終了した。

議事のうち、その1つに「コンピューター等導入委員会」の件があり、何回かの会合を重ねて、次第に本格化へ向かっている状況が報告された。このほか、昭和63年度開催を予定している「(仮題)全国考古展」が、「5000年前



のパフォーマンス—原始古代のまつり展—（案）という企画で進められていることが発表された。全国数ヶ所の都市のデパートなどを会場に、講演会・映画会なども同時に行うなど、約300点程度の資料を展示解説する新企画の展覧会である。こうした法人組織としては初めての催しであり、期待してよいであろう。

中世土器研究会

「第2回シンポジウム」に参加して

調査研究員 原 明芳

昭和62年4月5日(日)、中世土器研究会の主催による「第2回シンポジウム」が京都市伝統文化会館を会場として行なわれた。参加者は関西地方を中心として、全国各地より32名であった。テーマは「土器・陶磁器からみた古代末から中世への転換期」で、以下の4名の報告をもとに活発な意見交換が行われた。

- 1 山本信夫 「太宰府の古代末から中世の土器・陶磁器—10～12世紀の資料—」
- 2 原 明芳 「長野県吉田川西遺跡出土の土器—松本平の古代末期の土器の様相—」
- 3 鋤柄俊夫 「畿内における古代末から中世の土器—大阪南部を中心として—」
- 4 森 隆 「律令の須恵器生産崩壊以後の在地系土器群の成立と展開—9～10世紀の近江における—」

私の報告は『信濃』39-4に発表した「松本平における平安時代の食膳具—変化とその背景の予察—」をもとに、その中で示した第2段階から第3段階の食膳具の変化を松本平の古代末期の土器様相の大きな転換期ととらえ、吉田川西遺跡の資料を用いてその変化のありかたについて私見を述べたものである。報告に対していくつかの御意見をいただいた。とくに黒色土器の杯の出現期については、その背景に及ぶ貴重な指摘を受け示唆される点が多かった。

討論の中で感じたことは、この時期の土器の様相には強い地域性があるが、大きくみるとその基本となる器種の構成は同じであり、松本平、しいては長野県の該期土器の研究をするうえにも、多地域の様相を念頭におく必要があるということであった。

なお、12月の第3回の中世土器研究会において再びこのテーマで発表する予定である。

近年県内でもこの時期の調査例も増加しており、盛んに研究の必要性が叫ばれてはいるので、研究者の数は少ないが、地域を越えて研究者が集まる会を予定している。御意見をお寄せください。

長野県内調査報告書紹介(4)

◆塩崎遺跡群Ⅳ—市道松節〜小田井神社地点遺跡 長野市教委・同遺跡調査会(市埋蔵文化財18)(61-3)(A4 244+25)〈弥生〜平安の大遺跡群中の一部調査だが、5×623mの調査地域から住居址192、土壌墓31、土壌111など全面に遺構検出。同期遺物も好資料が多く、善光寺平の代表的遺跡として再確認される。〉

◆上の林遺跡—箕輪工業高校改築工事に伴う第4次緊急発掘調査報告書 箕輪町教委(61-3)(B5 27+10)〈紡錘車5ヶを出した弥生後期住の他、平安住3等〉

◆天伯古墳—学術発掘調査調査報告書 中川村教委(61+5)(B5 30+10)〈玄室と羨道区別がはっきりしない横穴式石室をもつ。圭頭・直刀・金環・鎌・土師・須恵器類と人骨の検出があり、築造は6世紀中頃〉

◆尾の島館遺跡—総合グラウンド山林広場建設に伴う緊急発掘調査報告書(61)(B5 94+12)〈中央構造線上に当る遠山谷にあり、東海地方との関連強い遺跡の1つで条痕文系資料が多い。なお、中世城館址についてもふれてある〉

◆恒川遺跡群—R153号バイパス建設工事緊急発掘調査報告書 飯田市教委(61-3)(B5 遺構編462+表13、遺物編187+表102+図238)〈縄文〜近世にわたるもののうち、遺物編は古墳時代までを収録、伊那郡衙跡と目される奈良・平安については未収。〉

◆恒川遺跡群—昭和60年度範囲確認調査概報 飯田市教委(61-3)(B5 10+8)〈伊那郡衙址範囲確認の4次調査、古墳〜平安住・小堅穴・溝など〉

◆堤林・島崎遺跡緊急発掘調査報告書—県営圃場整備事業に伴う第1次緊急発掘調査報告書 伊那市教委(61-3)(A5 18+14)〈中近世陶磁器片・永楽銭などが発見されている。〉

◆蟹沢桜林・入林・ワランベ遺跡緊急発掘調査報告書—団体営小規模排水対策特別事業に伴う緊急発掘調査報告書—伊那市教委(61-3)(A5 15+7)〈入林で中世城館跡の一部と陶磁器がある。〉

◆君石遺跡—両内田地区県営圃場設備に伴う緊急発掘調査報告書 塩尻市教委(61-2)(B5 32+5)〈平安住1、時期不明の方形周溝墓1とロームマウンド、溝跡など〉

◆禰ノ神・栗木沢・砂田—塩尻東地区県営圃場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 塩尻市教委(61-2)(B5 60+7)〈塩尻峠中腹に6世紀末〜7世紀中葉に継続的に築かれたと考えられる3基の横穴式石室、葺石をもつ禰ノ神古墳群。銅鏡の他玉類など装身具、人骨を出した1号墳を除き、2・3号墳の遺存状態はよくない。砂田遺跡では中世掘立柱建物址2棟が発見されている〉

◆松本市竹湊・南原遺跡—松本市北六区内県営圃場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 中信土地改良事務所・松本市教委(61-3)(B5 32+6+付図1)〈中世住

長野県内埋蔵文化財発掘調査要覧 (その2)

(昭和61年4月～62年3月)

							調 査	
No.	遺 跡 名	所 在 地	期 間	目 的 因	主体者	担 当 者	時 代	主 な 遺 構
57	くるみはら 来見原	大町市大町363-1 他	61. 4.21 61.11.19	ほ 場	市教委	篠崎健一郎	旧～中、近	竪-13 (古1、奈1、平11)
58	ひらくばじょうり 平久保条里	長野市篠ノ井大字塩崎 字平久保	61. 8. 1 61. 8. 2	ほ 場	市教委	青木 和朋 千野 浩	平	水田畦畔2 (平安)
59	こじまやなぎはら 小島柳原遺跡群-南川向	長野市北長池十二家裏1265他 長野市北尾張部南川向201-1 他	61. 8. 4 61. 8. 14	団 地	市教委	青木 和明 千野 浩	平	竪-5 (平)、他溝・土 拡など 近世井戸1
60	じつげやま 地附山(上池ノ 平)1～3号古墳	長野市上松	61. 8.20 61. 9.27	防 災	市教委	青木 和明 千野 浩	古	古墳3基 (5C末～6C 初) 1基は合掌型石室
61	ななせ 七瀬2号古墳	中野市大字七瀬字前山1231-1	61. 9. 1 61.10. 6	道 路	市教委	金井 汲次	古	古墳1基、周溝墳丘調査
62	七瀬6号古墳	中野市大字七瀬字前山1247-2	61. 9. 1 61. 9.30	道 路	市教委	金井 汲次	古	古墳1基、周溝墳丘調査
63	もりしょうぐんづか 森將軍塚古墳	更埴市大字森字大穴山 3122-28 他	61. 6.14 61. 9.26	学 術	市教委	岩崎 卓也	古	本墳及び周辺古墳調査、 土拡墓・埴輪棺など
64	ゆくら 湯倉洞窟	上高井郡高山村大字牧字湯沢 滝沢番外1-90	61. 7.27 61. 8.10	学 術	村教委	関 孝一	縄	洞窟1
65	てんま 伝馬町	飯田市仲之町363	62. 3. 1 62. 3.31	建 物	市教委	宮沢 恒之	近	武家屋敷跡
66	なま 生	更埴市大字雨宮字生仁	62. 3. 4 62. 3. 7	水 路	市教委	佐藤 信之	弥・古・奈 ・平	竪-6 (弥1、古3、奈 ・平1以上)
67	なか 中	下伊那郡阿智村大字春日 2821-1	61.12. 6 61.12.19	ブール 建 設	村教委	大沢 和夫	中・近	住居址1 (江戸?) 水路址1 (江戸?)
68	あか 赤	更埴市大字八幡字4416 他	62. 2. 2 62. 2.19	団 地	市教委	佐藤 信之	縄・古・奈 ・平	
69	あ 安	飯田市駄科1318 他	62. 2. 5 62. 3.20	建 物	市教委	小林 正春	縄・弥・奈 ・中	竪-12 (縄中2、弥後6、古1、 奈3) 溝-2 (弥、建-1 (弥))
68	史跡松本城黒 門出柵形二の 門跡	松本市丸の内4番1号地籍内 (黒門前、冠木門出入口)	62. 3. 4 62. 3.12	学 術	市教委	桐原 健	近	地形 (3か所) 及び礎石 (1こ)
69	島内遺跡群 (北方、北中)	松本市大字島内6775、5947 他	61. 8. 7 61.12.24	ほ 場	市教委	神澤昌二郎	平・中	竪17、埋蔵3、土壌多数 (以 上平安) 建13、さく列5、塚 3、火葬墓6、土壌・ビット 多数 (以上中世)
70	しまだてじょうり 島立条里的 遺跡	松本市大字島立2943～2950	61.11.11 61.12.12	道 路	市教委	神澤昌二郎	奈・平	竪-13、小竪穴2、ピッ ト200
71	島立条里的遺 構	松本市大字島立2942～2947	61.11.13 61.12.12	ほ 場	市教委	神澤昌二郎	平・中	竪-2 (平)、墓址 (中) 土壌12、溝状遺構 (平安 以降)
72	ご 五	更埴市大字屋代字2104	62. 4. 6 62. 4.19	建 物	市教委	佐藤 信之	古・奈・平	竪-4 (古)、1 (奈・ 平)
73	ま 馬	更埴市大字屋代字1000	61. 9.24 61.12.26	建 物	市教委	佐藤 信之	奈・平	竪40、建3 (以上奈・ 平)
74	ご 五	更埴市大字屋代字2104	61.10.14 61.12.23	建 物	市教委	山根 洋子	弥・古・奈 ・平	竪-1 (弥)、23 (古～ 平)
75	なか 中	塩尻市大字片丘北熊井	61.11.25 61.12.11	農 道	市教委	伊東 直登	縄・平	小竪穴8、ロームマウン ド4
76	にし 西	大町市大字常盤933-1 他	61. 4.14 61. 4.18	道 路	市教委	篠崎健一郎	縄・中	集石1、ビット1、溝1 (中世)

2と、不規則ながら柱痕・礎石を伴う柱穴が80箇所ほど竹刈遺跡で検出されている。)

◆松本市島内遺跡群上平瀬遺跡-松本市島内地区内県営圃場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 中信土地改良事務所・松本市教委 (61-3) (B5 24+6) 〈平安住2、掘立柱建物址2などがある。〉

◆松本市梶海渡遺跡-松本市神林地区内県営圃場整備

事業に伴う緊急発掘調査報告書 中信土地改良事務所・松本市教委 (61-3) (B5 16+2) 〈掘立柱建物址1、井戸状遺構、溝などがあるが所属時期は平安以降か。〉

◆推定信濃国府-信濃国府第4次確認緊急調査報告書 松本市教委 (61-3) (B5 18+6) 〈山辺中学校敷地と下の丁地籍で行った第4次信濃国府跡確認調査の報告。国府関連を徴するものの確認はない。〉

調査の概要欄の略記 〔時代〕旧一旧石器時代、縄一縄文時代、縄中一縄文中期、弥一弥生時代…(略)…中一中世、近一近世〔遺構〕堅一堅穴住居址、建一建物址、土一土壌、ビービット〔遺物〕〇〇箱一整理箱にまとめた量を示す

の 概 要	
主 な 遺 物	所 見
100箱	複合遺跡 自然遺物(木炭)多い
なし	
3箱	
1箱	2基は新発見
少々	墳丘3分の2なく主体部確認できず
鉄剣片1	墳丘消滅、主体部床面のみ確認
埴輪、須恵器、土師器 管玉など多数	史跡整備、新発見もある
5箱	
2箱	2回の柱礎変更を伴う母屋建物址確認
5箱(土器、骨片)	予備調査である 今後の本調査では住居址等十分な調査必要
土師器、須恵器、銅器、中・ 近世陶器など	
1箱(土器古〜平、石棒1)	遺物検出部分については再調査 する 試掘
15箱(縄中7、弥後6、古1、 他)	縄文中期から中世に至る大集落 の一部調査
瓦類81こ	門柱基石、地形(礎、瓦片、粘土で 副掘し固めたもの)発見。
灰釉陶器、須恵器、土師器 (以上平安)陶磁器、釘、刀 子、砥石、鎖状鉄製品(以上 中世)	礎石の判定は総合的判断が必要。 北方〜平安〜中世の微高地上の 集落址、北中・北方〜周辺は中 世以降の墓域か
土師器・須恵器14箱、陶器1 箱、緑釉陶器少量(以上奈良 〜平安)	ルート内の市道、永田・北栗線 沿いに遺構が集中する
土師器・須恵器・灰釉陶器3 箱(以上平安)、骨1体分、炭 化物・灰3袋(以上中世)	条里地割は中世以降か。住居址 出土土器はセットで把握できる 良好な資料。「在」の墨書土器
5箱(古〜平)	
土器50箱、金属器1箱(奈 ・平)	
土器40箱、金属器1箱(以上 弥〜平)	
縄文中期土器、打斧、磨斧、 石鏃、土師器	縄文中期集落・縁辺部か 平 安期の土師器片多い。近くに該 期集落が存在するかも
石器2(縄) 土器10(中世)	

◆黒田大明神Ⅱ一上郷町大明神原の土地改良総合整備事業に伴う町道拡張工事立合調査と、正命庵跡の調査報告書(61-3)(B5 23+12)〈縄文中期住2、土壌1、中世堀跡が黒田大明神Ⅱで、また、火災にあった近世正命庵跡の一部を確認している。〉

当センター初の報告書である「岡谷市」分が刊行されました。
頒布希望者は「長野県考古学会」へ(右欄)

昭和62年度長野県内埋蔵文化財 関係機関・構成等一覧

○文化課(埋蔵文化財係)

380 長野市大字南長野字幅下692-2
TEL 0262-32-0111(内3293・3294)

課 長 濱 篤 課長補佐 村沢 文一
埋文係長 原 聖
指導主事 笹沢 浩・太田 喜幸・小林 秀夫・
芦部 公一

○長野県文化財保護審議会(文化課内)(歴史関係のみ)

委 員 長 米山 一政
委 員 赤羽 篤・黒坂 周平・永峯 光一

○長野県遺跡調査指導委員会(文化課内)

委員長 戸沢 充則
委 員 田中 琢・永峯 光一・林 茂樹・
森嶋 稔

○長野県文化財保護指導員(文化課内)

東信: 出浦晃彦・小渕武一・久保浩美・滝沢主税・
柳沢 哲
南信: 今村善興・竹村美幸・林茂樹・堀口貞幸・
山内尚己
中信: 岩垂俊雄・小穴芳実・大久保知己・篠崎健一郎
山下生六
北信: 金井汲次・高橋桂・土屋積・徳嵩雄司・
丸山日出男

○長野県文化財保護協会(事務局は文化課内)

会 長 黒坂 周平 常務理事 小出 章

○長野県史刊行会 380 長野市大字稲葉八幡沖田2413-11

長野県南俣庁舎内
TEL 0262-26-8008

理事長 吉村 午良 常務理事 中島 正美

編集委員長 宝月 圭吾

主任編纂委員兼事務長 塚田 正朋

考古篇編纂委員 宮下健司・郷道哲章(常任)

永峯光一・岩崎卓也・戸沢充則・森嶋 稔
樋口昇一・桐原 健・神村 透

○長野県考古学会 386 上田市染谷2117川上元方

TEL 0268-24-4936

顧問 八幡 一郎・大沢 和夫

会 長 森嶋 稔 事務局長 川上 元

○(財)長野県埋蔵文化財センター(3頁参照)

埋文センター人事異動

(61・4・1付)

○転・退任

池田宗兵衛理事 総務部東京事務所長へ
宮下 哲 " 衛生部医務課長へ
杉田 貞夫監事 上伊那地方事務所長へ
西沢 宣利事務局長 社会部青少年家庭課対策幹へ
中島 経夫調査研究員 松本養護学校信濃学園分室へ
中村 千尋 " 長野市川田小学校へ
高野 博正 " " 更府 "
市沢 英利 " 下伊那郡喬木中学校へ
北原 正治 " 伊那市伊那北小学校へ
百瀬 久雄 " 松本市今井小学校へ
青柳 英利 " 大町北高等学校へ
春日 雅博 " 駒ヶ根工業高等学校へ
斎藤 正善 " 須坂園芸高等学校へ

○新任

塚原 隆明常務理事 県教委教育次長より
伊藤万寿雄 " 人事委員会事務局長より
山極 達郎理事 総務部東京事務所長より

濱 篤理事 監査委員会事務局次長より
岡田 泉監事 県教委体育課長より
半田 順計事務局長 県教委教学指導課課長補佐より
永田 伸男主任 北安曇郡地方事務所土地改良課管理係長より
宮沢 恒之調査部長 下伊那郡高森中学校より
宮尾 栄三調査研究員 長野市篠ノ井東中学校より
木内 行雄 " 木曽郡福島中学校より
吉沢 信幸 " 戸倉上山田中学校より
小林 秀行 " 下伊那郡大鹿中学校より
小平 恵一 " 新規採用
降旗 史敬 " 大町北高校より
高田 実 " 新規採用
斉藤 伸介 " " "

なお、下記の調査研究員は埋文センター在籍のまま新規採用となりました。

寺内隆夫・西山克己・上田典男・大竹憲昭・平林彰・戸瀬忠幸・岡村秀雄・河西克造・宇賀神誠司・伊藤友久

埋文センター日記抄(昭和62年4月～6月)

〈(長)は長野、(佐)は佐久、(松)は松塩筑調査事務所〉

4月1日 新任者県庁にて辞令交付
" 2日 新年度初の全体会・調査員会・係会開く
" 3日 埋文センター幹部会(長)
" 4日 「塩尻市吉田川西遺跡の土器について」と題し日
本中世土器研究会にて原明芳調査研究員研究発表
(於京都市 5日まで)
" 6日 栗毛坂D地区・北中・北村各遺跡とも調査員による調査を開始
" 8日 北中遺跡発掘作業開始式
" 13日 栗毛坂A・C地区、西赤座、北村各遺跡で発掘作業開始式。信濃毎日新聞取材
" 14日 野原健一長野大教授吉田川西遺跡出土鉄製品の件で来所(松)
" 15日 北中遺跡発掘作業終了 20日で完了
" 20日 古司遺跡にて筑北地区の発掘調査開始式。文化課
長ら松本地域の遺跡視察(21日まで)
" 23日 内堀県教育次長佐久調査事務所視察
" 22日 SBCラジオ県民室で本年度概要を取材
" 28日 文化課長ら佐久地区視察 NHKテレビ取材
4月30日 教育長を迎えて長野調査事務所開所式
5月1日 3事務所調査部長会(佐)
" 7日 61年度法人監査(松)

" 8日 佐久地区調査にて公団と日程打合せ
" 15日 62年度全国埋文協関東・中部ブロック会議出席
(於静岡市) 3名出席
" 19日 佐久公団にて文化課、センターで打合せ
" 20日 内堀教育次長、長野事務所視察
" 22日 第13回埋文センター理事会(於佐久市)
" 25日 北村遺跡現場にて公団・センターで打合せ
" 26日 河原田前副理事長、松塩筑事務所へ
" 28日 坂本・田代山梨県考古博物館文化財主事来所
" 31日 古司・子尾入両遺跡の調査完了
6月2日 副理事長、本年度事業概要を副知事に説明
" 4日 北村遺跡にて公団・高速道・センター三者打合せ
" 5日 村山理事長北村遺跡視察
" 8日 3事務所所長会議(長)
" 11日 62年度全国埋文協総会、諏訪市で開催。出席者94名(12日まで)
" 15日 北村遺跡調査会議(於豊科公団事務所)
" 19日 長野・群馬両県教委埋文担当者両県の調査現場を視察(20日まで)

編集後記：本誌も20号から21号へとつづき、ようやく成人式を終了したところです。年4回の発行といっても結構忙しく、いつも原稿集めや編集に追われています。小冊子のためか、あまり読者から御批判をいただけないのが少々淋しいところです。長野県内の埋文関係ニュースを網羅して全国へという方針です。御遠慮なく御叱正をお願いします。次号では秋の展示会や夏の調査成果を中心に編集する予定です。